

典礼のしおり

o Domingo N.º 13
PANIB 発行 24 - 03 - 2024

御受難の主日 (枝の祝日)

兄弟の皆さん、棕櫚の葉を手にとって、おいでになる主を出迎えましょう。その時の群衆にならって私たちも喜びを持って叫びましょう。今日の典礼は、ご受難の神秘、主の死と復活という私たちの信仰の中心である聖週間へ招きます。ダビデの子イサエルの王にホザンナ！主の御名によって来る方に賛美！

司祭・皆さん、四旬節の始めから、償いと愛の業によつて身も心も整えてきた私たちは、今日からいよいよ、全世界の教会と心を合わせて主の過ぎ越しの神秘を祝うため、ここに集まりました。キリストは、受難と復活を通して救いの業を完成するために、ご自分の町エルサレムにお入りになりました。私たちに救いをもたらした主のエルサレム入場を、厚い信仰と敬虔な心で記念し、神の恵みに支えられて主の十字架を思い

起こし、主の復活と新しい生命にも預かることができるように、主の後に従って歩みましましょう。

枝の祝別

全能永遠の神よ、この枝を祝福してください。主・キリストに喜び従う私たちが、ともに永遠の都エルサレムに入ることができるよう。アーメン。

マルコによる福音 (マルコ 11・1—10)

一行がエルサレムに近づいて、オリブ山のふもとにあるベトファゲとベタニアにさしかかったとき、イエスは二人の弟子を使いに出そうとして、言われた。「向こうの村へ行きなさい。村に入るとすぐ、まだだれも乗つたことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどいて、連れて来なさい。もし、だれかが、『なぜ、そんなことをするのか』と言ったら、『主がお入り用なのです。すぐここにお返しになります』と言いなさい。」二人は、出かけて行くと、表通りの戸口に子ろばのつないであるのを見つけたので、それをほどいた。すると、そこに居合わせたある人々が、「その子ろばをほどいてどうするのか」と言った。二

人が、イエスの言われたとおりに話すと、許してくれた。二人が子ろばを連れてイエスのところに戻って来て、その上に自分の服をかけると、イエスはそれにお乗りになった。多くの人が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は野原から葉の付いた枝を切って来て道に敷いた。そして、前を行く者も後に従う者も叫んだ。

「ホサナ。

主の名によつて来られる方に、

祝福があるように。

我らの父ダビデの来るべき国に、

祝福があるように。

いと高きところにホサナ。」

行列

司祭・主イエスを欢呼のうちにエルサレムに迎えた
群衆にならつて、私たちも救い主イエスをたたえながら、主の過ぎ越しの記念を行うために行きましょう。

集会祈願

全能永遠の神よ、あなたは人類にへりくだりを教えるために、救い主が人となり、十字架をになうようにお

定めになりました。わたしたちが、主とともに苦しみを耐えることによつて、復活の喜びをともにすることができましように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによつて。アーメン。

* 解説

イエスとは誰ですか？ 今日、私たちが自分に問いかけることができる質問です。聖書の朗読は彼が「苦しむしもべ」であり、自分をむなしくした人であることを答えています。大きな啓示は福音から来ます。「イエスは神の子」です。

イザヤの預言 (イザヤ 50・4-7)

主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え

疲れた人を励ますように

言葉を呼び覚ましてくださる。

朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし

弟子として聞き従うようにしてください。

主なる神はわたしの耳を開かれた。

わたしは逆らわず、退かなかつた。

打とうとする者には背中をまかせ

ひげを抜こうとする者には頬をまかせた。
顔を隠さずに、嘲りと唾を受けた。

主なる神が助けてくださるから

わたしはそれを嘲りとは思わない。

わたしは顔を硬い石のようにする。

わたしは知っている

わたしが辱められることはない、と。

答唱詩編 〇典 176〇1 〇2 〇3 〇4

(詩編 22・8+9' 17+18' 19+20' 23+24)

朗・わたしの神、わたしの神、

どうしてわたしを見捨てられるのか。

全・わたしの神、わたしの神、

どうしてわたしを見捨てられるのか。

朗・わたしを見る者はみなあざ笑ひ、

わたしをののしって言う。

「彼は神を頼みとした。神が救いに来ればよい。

神が彼を心にかけているのなら、

救い出せばよい。」

全・わたしの神、わたしの神、

どうしてわたしを見捨てられるのか。

朗・犬がわたしを取り囲み、

悪を行う者の群れが迫り、

わたしの手足を引き裂いた。

わたしはさらしものにされ、

彼らはわたしを見つめる。

全・わたしの神、わたしの神、

どうしてわたしを見捨てられるのか。

朗・彼らはわたしの衣を分け合い、

着物をくじ引きにした。

神よ、わたしから遠く離れず、

急いで助けに来てください。

全・わたしの神、わたしの神、

どうしてわたしを見捨てられるのか。

朗・わたしはあなたの名を兄弟に告げ、

その集いの中であなたをたたえる。

神をおそれる者は神をたたえ、

ヤコブの子孫はみな神をほめよ。

イスラエルの子孫はみな神をおそれよ。

全・わたしの神、わたしの神、

どうしてわたしを見捨てられるのか。

使徒パウロのフィリピの教会への手紙

(フィリピ2・6—11)

「イエス・」キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

詠唱

キリストは人間の姿で現れ、死に至るまで、しかも

十字架の死に至るまで、自分を低くして、従う者となった。それゆえ神はキリストを高く上げて、すべてにまさる名をお与えになった。

マルコによる主イエス・キリストの受難

(マルコ15・1—39)

C 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛って引いて行き、ピラトに渡した。ピラトはイエスに尋問した。

A 「お前がユダヤ人の王なのか。」

C イエスは答えられた。

† 「それは、あなたが言っていることです。」

C そこで祭司長たちが、いろいろとイエスを訴えた。

ピラトが再び尋問した。

A 「何も答えないのか。彼らがあのようにお前を訴えているのに。」

C しかし、イエスがもはや何もお答えにならなかつたので、ピラトは不思議に思った。

ところで、祭りの度ごとに、ピラトは人々が願ひ出る囚人を二人釈放していた。さて、暴動のとき人殺し

をして投獄とうじやくされていた暴徒ぼうとたちの中に、バラバという男おとこがいた。群衆ぐんしゆうが押しかけて来て、いつものようにしてほしいと要求し始めた。そこで、ピラトは言った。

A 「あのユダヤ人の王を釈放しかくほうしてほしいのか。」

C 祭司長しやくしちやうたちがイエスを引き渡したの、ねたみのためだと分かっていたからである。祭司長しやくしちやうたちは、バラバの方かたを釈放しかくほうしてもらうように群衆ぐんしゆうを扇動せんどうした。

そこで、ピラトは改めて言った。

A 「それでは、ユダヤ人の王とお前まへたちが言いっているあの者は、どうしてほしいのか。」

C 群衆ぐんしゆうはまた叫さけんだ。

S 「十字架じゆうじやにつける。」

C ピラトは言いった。

A 「いったいどんな悪事あくじを働はたらいたというのか。」

C 群衆ぐんしゆうはますます激はげしく叫さけび立てた。

S 「十字架じゆうじやにつける。」

C ピラトは群衆ぐんしゆうを満足まんぞくさせようと思おもって、バラバを釈放しかくほうした。そして、イエスを鞭打むちうちってから、十字架じゆうじやにつけるために引き渡した。

兵士へいしたちは、官邸かんでい、すなわち総督官邸そうとくかんでいの中に、イエスを引ひいて行き、部隊ぶたいの全員ぜんいんを呼び集あつめた。そして、イ

エスに紫むすひの服ふくを着きせ、茨いばらの冠かんを編あんでかぶらせ、

A 「ユダヤ人の王、万歳ばんざい」

C と言いって敬礼けいらいし始めた。また何度も、葦あしの棒ぼうで頭あたまをたたき、唾つばを吐はきかけ、ひざまずいて拜おがんだりした。このようにイエスを侮辱おなじやくしたあげく、紫むすひの服ふくを脱ぬがせて元の服ふくを着きせた。そして、十字架じゆうじやにつけるために外そとへ引き出した。

そこへ、アレクサンドロとルフオスとの父ちちでシモンというキレネ人が、田舎いなかから出て来て通りかかったので、兵士へいしたちはイエスの十字架じゆうじやを無理むりに担かがせた。そして、イエスをゴルゴタゴルゴタという所ところ、その意味いみは「されこうべの場所ばしょ」、に連れて行いった。没薬ぼつやくを混まぜたぶどう酒しゆを飲のませようとしたが、イエスはお受けにならなかつた。それから、兵士へいしたちはイエスを十字架じゆうじやにつけて、その服ふくを分け合あった、

だれが何なにを取とるかをくじ引きで決めてから。

イエスを十字架じゆうじやにつけたのは、午前九時きゆうじであった。罪状書ざいじゆうがきには、「ユダヤ人の王」と書いてあつた。また、イエスと一緒に二人ふたりの強盗かうとうを、一人は右みぎにもう一人は左ひだりに、十字架じゆうじやにつけた。そこを通とおりかかった人々ひとびとは、頭あたまを振りながらイエスをののしって言いった。

A 「おやおや、神殿しんでんを打ち倒したおし、三日で建ててる者、十字架から降りて自分を救おつてみる。」

C 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒にあって、代わる代わるイエスを侮辱ぶじよくして言った。

A 「他人は救ったのに、自分は救えない。メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」

C 一緒に十字架につけられた者たちも、イエスへのしつた。

昼の十二時になると、全地ぜんちは暗くらくなり、それが三時まで続いた。三時にイエスは大声で叫こばれた。

† 「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」

C これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨みすてになったのですか」という意味である。そばに居合あわせた人々のうちには、これを聞いて、

A 「そら、エリヤを呼んでいる」

C と言う者がいた。ある者が走り寄り、海綿かいめんに酸すいぶどう酒を含ませて葦よしの棒ぼうに付つけ、

A 「待まちて、エリヤが彼を降おろしに来るかどうか、見ていよう」

C と言いいながら、イエスに飲のませようとした。しか

し、イエスは大声を出して息を引き取られた。

(頭を下げて、しばらく沈黙のうちに祈る)

すると、神殿の垂れ幕たまくが上から下まで真二つに裂さけた。百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て言った。

A 「本当に、この人は神の子だった。」

信仰宣言

共同祈願

司・兄弟姉妹の皆さん、エルサレムにおいて栄光に入るために苦しみを受けられた人類の救い主に叫びましよう。

全・主の名において来られる方は祝福されますように。

1・主イエス、貴方は受難じゆなんを通して栄光に入られました。教会を永遠の復活に導いてください。

全・主の名において来られる方は祝福されますように。

2・**ダビデの子イエス、貴方と共に死の力に打ち勝ち、神の子供たちを攻撃する悪の力を克服する事が出来るよう助けてください。**

全・主の名において来られる方は祝福されますように。

3・永遠の王たるキリスト、世界の隅々^{すみずみ}にまであなたの名を広めるよう、あなたの民を力付け、ともに集う^{つど}集会^{しゅうかい}の中であなただを賛美^{さんび}する事が出来ますように。

全・主の名において来られる方は祝福されますように。

4・神のしもべよ、貴方^{あなた}は不正^{ふせい}な裁判^{さいばん}の結果^{けつか}、苦しまれました。社会^{しゃかい}の暴力^{ぼうりよく}と怠慢^{たいまん}の犠牲者^{ぎせいしや}たちを助けてくださいますように。

全・主の名において来られる方は祝福されますように。

5・十字架^{じゅうじか}の死^しに至^{いた}るまで従順^{じゆうじゆん}であられたキリスト、私^{わたくし}たちに御父^{おふ}なる神^{かみ}のみ旨^{むね}に従順^{じゆうじゆん}で忠実^{ちゆうじつ}であることを教えてください。

全・主の名において来られる方は祝福されますように。

司・主よ、このすべての願いを、貴方と共に世々に生き、支配^{しやくぱい}される御子^{おみこ}キリストによってお捧げいたします。全・アーメン。

奉納祈願

いつくしみ深い神よ、御ひとり子の受難^{じゆなん}によってわたしたちをおゆるしくください。わたしたちの力^{ちから}では得^えることのできないこの恵^{めぐみ}みを、十字架^{じゅうじか}のいけにえによって豊かにいただくことができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

拝領祈願

いのちの糧^{かて}でわたしたちを強めてくださった神よ、あなたは、ひとり子の死によって、信じる者に希望^{きぼう}を与えてくださいました。御子の復活^{こっくわつ}によってわたしたちが、望みの地に達^{たつ}することが出来ますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

御受難の主日

(枝の祝日)

